

【一般演題4】 第14席

「明代における東垣鍼法」

神奈川 上田 善信

「東垣鍼法」は明・高武の『鍼灸聚英』の中に見られる記載が最も早いものである。その後、明・楊継州も亦た『鍼灸大成』巻九に『鍼灸聚英』の全文を引いている。高武は李杲を高く評価し、鍼に関する内容について特に一章を立てて「東垣鍼法」と名づけた。この「東垣鍼法」は李杲の著書のうち、『蘭室秘蔵』から一条を引用している以外は全て『脾胃論』からの引用である。

今回の発表では、後世に大きな影響を与えた李杲の脾胃学説の中心となっている『脾胃論』中の鍼法について、

①使用されている穴について

②刺鍼の方法

を中心に論及する。